

## 3. 本市の景観形成における課題の整理

### (1) 石岡市の景観特性の整理

第2章「石岡市の景観の現状」で見たように、石岡市には、自然や歴史等、様々な景観の特徴があります。これらの景観の特徴は、大枠で、**自然の景観を主とする田園地域**と、**人工的な景観を主とする市街地**とで捉えることができます。

自然を主として捉えられる田園地域は、主には地形によってその印象が異なります。恋瀬川流域においては、下流の広々とした景観の地域、こんもりとした緑に背後を囲まれた竜神山周辺の地域、中流の盆地の中心にあつて開放感のある景観の地域、そして上流の深々とした山並みに囲まれた地域が、それぞれ印象の異なる景観のまとまりとして捉えられます。また、西側の筑波山麓を背にした地域と、小桜川上流の山並みに囲まれた地域も区分されます。さらに、園部川流域においては、のんびりと明るい下流地域と、濃い緑に囲まれて緩傾斜の畑作地帯が分布するのが特徴の上流地域と、それぞれまとまりが見られます。

これらの田園地帯に対し、人工物を主として捉えられる地域は、建築物が建ち並び、その用途によって地域の景観が印象づけられます。石岡駅前を含む商店街や公共施設等が多く立地する市街地は、その中に社寺や遺跡など歴史的な景観資源の分布も多くあり、一つのまとまりある特徴として捉えられます。これに対し、新しく計画的に整備された住宅市街地は、その東側にまとまっています。さらには、骨太な幹線道路が通る大区画の工業地帯、生活の身近な商店街が並ぶ柿岡の市街地が、市内の市街地景観のまとまりとして捉えることができます。これらの市街地景観においては、街なみの合間や背景に山並みを眺望することができるのも、その特徴といえます。

こうして市内の各地域における景観の特徴を大枠で捉えていくと、石岡市の景観特性として、12の地域的なまとまりが見えてきます。

さらには、このうち石岡中心市街地ひとつとっても、比較的大きな店舗が面した表通りの景観と、生活感のにじむ裏通りの景観といったように、詳細に見ると印象の違いがあるので、本書で整理した地域の景観資源に加えて、各地で丁寧に景観資源を掘り起こしていくことが今後とも重要であるといえます。

様々な資源が分布し、市内各地でそれぞれの特徴がある石岡市ですが、空や山上から**見下ろす景観**には、緑の山並みと河川によってつながる大きな骨格を、はっきり見て取ることができます（1ページ航空写真参照）。また逆に、**地上から遠望する（見上げる）景観**にも、**山並みや河川を骨格**として感じ取ることができます。道路やあぜ道は、こう

石岡市の景観の現状から見られる市内各地の景観の主な特徴

景観の現状						特徴	主な町名	
自然		歴史	市街地・集落	幹線道路	公園・緑地			
山並み	河川等							
筑波山など	山王川	国衙、府中城、看板建築など	商店街など			石岡中心市街地	まちの顔となる商業・業務機能が集積する市街地。古代から積み重なる歴史を随所に感じる町並み	国府、総社、若宮、府中、若松、貝地、田島、茨城、泉町、杉並、杉の井、北府中、谷向、鹿の子
筑波山など	生板池、山王川		住宅地など	国道6号		石岡東市街地	計画的に形成された住宅と商業地。公園や街路樹、周辺の山林等の豊かな緑の景観。大型商業施設も目立つ。	東石岡、東光台、旭台、南台、大谷津、田崎、ばらき台
筑波山など	柏原池		工業団地など		柏原池公園	柏原	大区画の工業地や公園、広幅員の街路などから緑の山並みを背に広々とした景観	柏原
筑波山など	恋瀬川		柿岡市街地			柿岡	周辺を自然に囲まれ、商店街や公共施設が旧街道沿いに集積した市街地。歴史との調和も感じられる	柿岡
筑波山ほか	恋瀬川、霞ヶ浦	舟塚山古墳など	田園地帯	国道6号	サイクリングコース	恋瀬川下流・霞ヶ浦	各所の水辺や橋上から水と緑を望める田園地帯。かつて水運で栄えた町並みを感じる雰囲気もある	高浜、東田中、中津川、北根本、三村、井関、石川
筑波山、竜神山ほか	恋瀬川		田園地帯	ふるさと農道	風土記の丘	竜神山周辺	竜神山周辺に形成された緑豊かな集落地域。恋瀬川に面した開放感と山の奥行きを兼ね備えた雰囲気がある	染谷、村上、並木、大砂
筑波山ほか	園部川、傾城池	茅葺き	田園地帯			園部川下流	園部川に沿った緑豊かな集落地域。国道6号や市街地の近くにありつつ、のどかさを感じる	小井戸、東大橋、八軒台、東府中、行里川、荒金、正上内
愛宕山ほか	園部川、畑作景観	茅葺き	田園地帯			園部川上流	周囲を濃い緑に囲まれた集落地域で、緩やかな起伏のある地形を生かした農地や集落の景観	碓石沢、半ノ木、根当、栄松、柴間、山崎、宮ヶ崎、真家、東成井、下林、加良寿理、片岡、浦須、上林
加波山、吾国山ほか	恋瀬川、鳴滝	茅葺き	田園地帯	フルーツライン		恋瀬川上流	恋瀬側上流域の集落地域で、緑濃い山並みに囲まれつつ、傾斜地や川沿いの開放感も兼ね備えた景観	大塚、中戸、太田、小見、大增、瓦谷、小塙、宇治会、野田、佐久、部原
筑波山、富士山ほか	恋瀬川、川又川	茅葺き	田園地帯	ふるさと農道		恋瀬川中流	恋瀬川中流域に広がる集落地域で、水田地帯からは富士山、筑波山を眺望する	根小屋、片野、金指、川又、加生野
筑波山ほか	川又川	西光院茅葺き	田園地帯	フルーツライン、朝日トンネル	フラワーパーク	筑波山麓	筑波山系西側の街道筋や山際に形成された集落地域。拠点施設に人を迎え入れる雰囲気もある	小幡、須釜、細谷、下青柳、上青柳、上曾、龍明、小屋、鯨岡、小山田、小倉、吉生
柴内山ほか	小桜川	薬師古道茅葺き	田園地帯	フルーツライン、朝日トンネル		小桜川上流	朝日峠北側の山並みに囲まれた集落地域で、茅葺き民家や里山があり、落ち着いた雰囲気	半田、月岡、青田、弓弦、柴内、辻、菖蒲里山、小野越、仏生寺、朝日



まちの顔となる市街地の景観（石岡のおまつり）



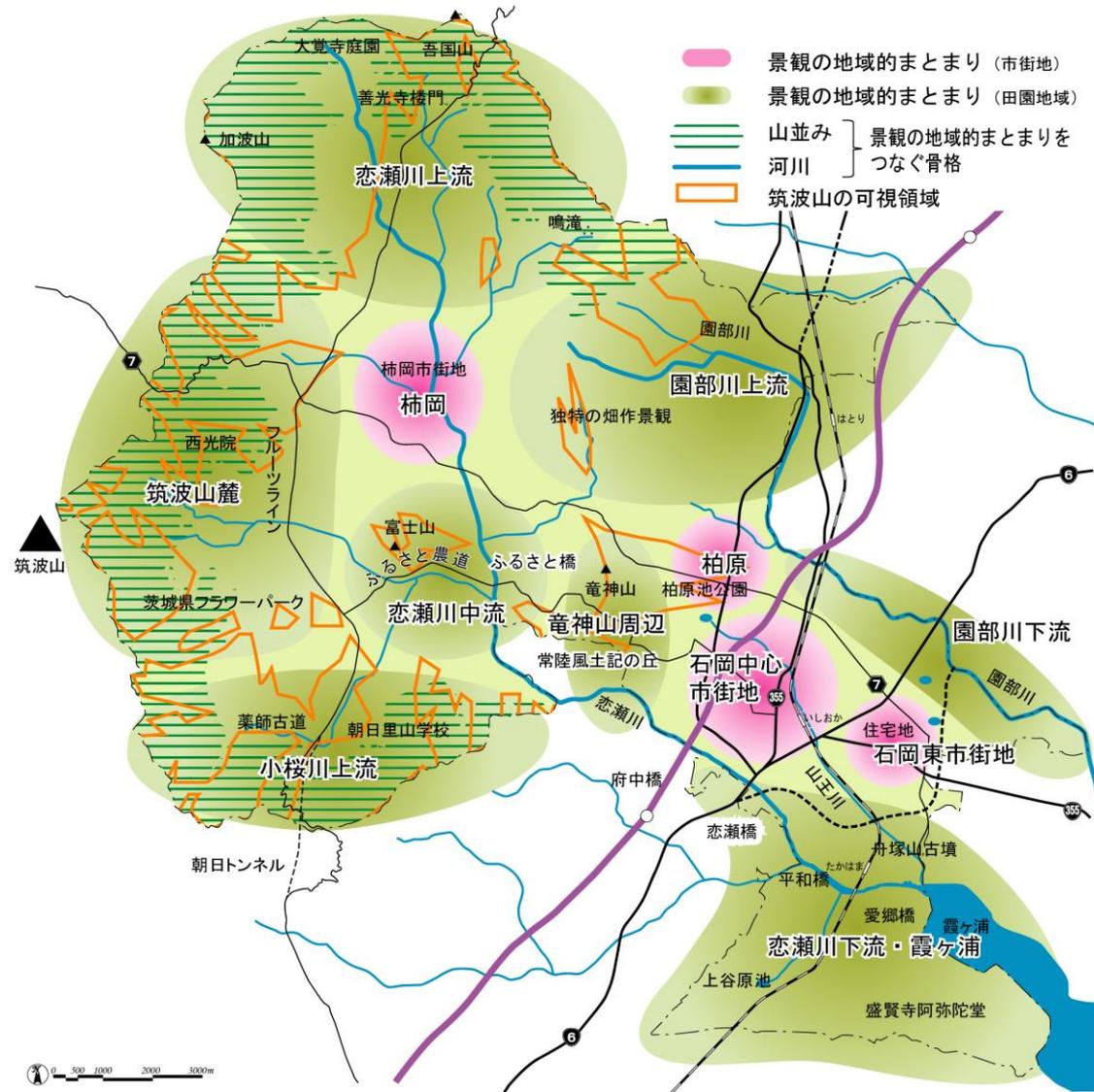
まとまりを感じる田園地域の景観



計画的に整備された市街地と田園景観の際（山王川）



# 景観特性の総括図



ふるさと橋から望む筑波山 画. 塚原明義氏

## (2) 石岡市の景観形成における課題

---

石岡市の景観形成について、まず上位計画からは、①愛着と誇りを持てる景観を次世代に伝える、②景観づくりで大切にすべき点（自然、歴史、秩序ある町並み・田園）、③地域の特性の尊重、④協働の景観づくりといった条件を踏まえます。

市民意識等を踏まえて石岡市の景観の現状を見ると、自然、歴史、市街地・農村景観等の中から、市民にとって「ふつう」で大切に捉える良好な景観の資源を各地で多く見いだすことができ、また、これらの資源を市域全体でつなぐ景観の特徴として、山並みと水系の骨格を捉えることができます（前節「石岡市の景観特性の整理」参照）。

こうした現状に対して、導かれる課題の一つは、市内各地の景観資源をつないでいくための「**骨格からの景観形成**」です。市民の多くが、市内各所の景観から見える山並み、筑波山を大切に感じています。恋瀬川をはじめとする水系を軸にその眺望点が分布しており、この眺望点を中心に、美しい景観づくりを進めることで、市域全体の様々な景観資源がつながり、良好な景観が形成されます。

二つ目は、「**地域からの景観形成**」です。本書で整理した地域の自然や歴史、立地する施設やまちの土地利用などを手がかりに、景観資源をさらに丁寧に掘り起こし、市民が大切に感じる景観をよりかけがえのないものとして感じられるような景観づくりを、各地で通学路など身近なところから進めていくことが大切です。

そして三つ目は、「**協働による景観形成**」です。骨格からにしる、地域からにしる、良好な景観づくりには、建築物や道路、河川や農地・山林、その他の課題まで日常的な維持・管理が重要です。地区の景観の良さを伸ばすために工夫すべき点は何か、問題のある点を抑えることはできないか、地域において市民、事業者が主体となって考え、確認し合い、行動することです。行政は、市民、事業者が主体的な取り組みがしやすくなるよう支援します。例えば、市民が歴史的建造物を保全する際の共通の方針の整理や、道路等の公共施設の景観整備などが想定されます。市民、事業者、行政の協働ということが、景観形成の基本であり、みんなで取り組むことが、ひいては地域の活性化にもつながり、結果的に担い手不在による問題点までも解消されることにつながります。

このように景観を題材にみんなで3つの観点から力を合わせて取り組んでいくことが、石岡市における景観形成、まちづくりの課題として整理されます。

課題の整理

